

まなびや

福沢諭吉と

自由採択時代の教科書

一八七二(明治五)〜一八八六(明治十九)年



明治五年、学制が發布された当時の教科書は欧米の教科書を翻訳・編集したものが多く、文明開化の風潮が反映されていました。文部省や東京師範学校が出版にあたったほか、民間で出版した書物を自由に教科書として用いることができました。そこで、欧米

學問ノすゝめ

340万冊のベストセラー



【本館資料】初編 片仮名交じり三刻(和紙木版半紙四ツ折判：明治6年)

の事情に詳しい福沢の書物が多く教科書として用いられていました。

西洋事情

慶応二〜明治三年



福沢が幕府の使節団の一員として欧米各国を歴訪した際、見聞きした政治・教育・から蒸気機関・ガス灯、郵便制度にいたるまでを述べたもの。西洋の近代的な制度や技術等について紹介し、地理教科書として使用されました。

窮理図解

慶応四年

正式名称は、『訓蒙窮理図解』(くんもうきゆうりずかい)。福沢諭吉があらわした、身近な自然現象を解説した日本初の科学入門書で、「窮理熱」といわれる出版ブームをおこしました。訓蒙とは子供



や初心者に教え諭すという意味。窮理学とは、当時の言葉で広義の物理学をさす。明治五年学制後「窮理」が「物理」に代わり、小学校の教科書として用いられていました。

學問のすゝめ全

明治五〜九年 全十七編

第一編冒頭の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり」は有名。実学をすすめ、自由平等と分限の関係を説き、個人の自由から国家の自由独立に言及し、学問の必要性を強調しています。それまで福沢諭吉は翻訳書や西洋の紹介書を書いてきたが、「学問のすゝめ」は、福沢の信念にもとづいて書か

れた初めての書。一八七二年二月から一八七六年十一月までの約五年にわたり十七編の小冊子として発行され、合本したものが明治十三年に出版されました。

初編が刊行された半年後、政府も「国民皆学」の方針を打ち出し、官製の偽版が配布されたり小学校教科書に載ったりするなど、初版約20万部、明治30年頃までの流布部数約三四〇万冊という数はその影響の大きさを示しています。

資料募集

当館では、資料として戦後から現在までの教科書、教材教具など教育資料を収集しています。貴重な資料がありましたら、お知らせください。※明治期の書籍、廃校休校の校歌楽譜音源なども募集中。



問合せ先
0776
58-2250